

令和2年度学校だより

横浜市立緑園西小学校発行



緑園西

泉区緑園3丁目39番地

Tel (811) 6030

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuennishi/>

「ならぬことは ならぬものです」

学校長 立田 順一

ちょうど1年ほど前に、福島県会津若松市の学校関係者から次のようなお話を伺う機会がありました。

江戸時代の会津藩は教育に力を入れており、上級藩士の子弟は10歳になると日新館と呼ばれる学校へ入学することになっていたそうです。ちなみに、「日新」は中国の故事「日々新又日新」に由来し、「毎日毎日新しい日として迎え、その一日を意味あるものにして、常に進歩をするように修養することが大切だ」という意味があります。日新館に入学すると、15歳までは初級の「素読所」に所属し、礼法、書学、武術などを学びます。そこを修了した者のうち、成績優秀者は上級の「講釈所」への入学が認められ、そこでも成績がよかった者には江戸や他藩への遊学が認められていたそうです。

また、入学前の6歳から9歳までの子どもたちは、10人前後の人数で集まりをつくっていました。この集まりのことを会津藩では「什(じゅう)」と呼び、その中の年長者が什長(座長)となりました。

什には「嘘言(うそ)を言ふことはなりませぬ」「卑怯な振舞をしてはなりませぬ」「弱い者をいじめてはなりませぬ」などの7つの掟(おきて)があり、これらのことは「ならぬことは ならぬものです」と、子どもたちに申し渡されていました。

もちろん、江戸時代の武家の男子を対象にした掟ですから、中には「戸外で物を食べてはなりませぬ」「戸外で婦人(女性)と言葉を交へてはなりませぬ」など、現代には通用しないものも含まれています。しかし、嘘、卑怯なこと、弱い者いじめなどを戒めることは、昔も今も同じです。「ならぬことは ならぬもの」なのです。当時の什では、一日の終わりに誰かの家に集まって、掟を守らなかった者がいなかったかどうか、反省会を行っていたそうです。

幕末から明治にかけての会津藩は歴史の波に翻弄され、白虎隊の悲劇も生みます。けれども、諸藩から恐れられ、また尊敬もされた「会津魂」の原点は、この「什の掟」にあったといえるでしょう。

現在の福島県会津若松市では、「什の掟」をもとにして次のような『あいづっこ宣言』を策定し、青少年の健全育成に向けて取り組んでいるそうです。

あいづっこ宣言

- 1 人をいたわります
- 2 ありがとう ごめんなさいを言います
- 3 がまんをします
- 4 卑怯なふるまいをしません
- 5 会津を誇り 年上を敬います
- 6 夢に向かってがんばります

※詳しくは、会津若松市のホームページから
ご覧になれます。

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2007080601668/>



やっちはならぬ やらねばならぬ ならぬことは ならぬものです